



Title	甲元健雄教授御退官記念特集号によせて
Author(s)	片山, 忠雄
Citation	大阪外大英米研究. 1968, 6
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/98971">https://hdl.handle.net/11094/98971</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 甲元健雄教授御退官記念特集号によせて

片 山 忠 雄

甲元健雄教授は昭和42年3月に御退官になった。教授は本学の規定による定年までにあと十年を残しておられる壮年であり、筆者のように外大の月見過しにけり末二年はおろか末十年の感ある徒輩とはことなり、これからも英語学科のために大いに働いていただけの方だけに、なんとかしてご翻意を願うべく教室一同衆智をあつめ、総力をあげて努力はしてみた。しかし、諸般の状況を十分勘案されて決意をかためておられた先生をお引留めすることはできなかった。とはいえ、掛替のない先生を時ならず失った残念は今なお消えないし、今後とも消えることはなかろう。

甲元先生は昭和20年3月本学の前身である大阪外事専門学校教授として就任されて以来二十有余年にわたって本学の英語教育のために尽瘁され、今日、実業界といわず、教育界といわず社会各方面の中堅として活躍している幾多の人材を育成された。また森沢教授が学長に就任されて以来数年間は英語学科の主任教授としてわれわれを嚮同され、煩瑣な雑務を一手に引受けて処理していただいたご功績と共に教室一同の感謝に堪えないところである。

先生はその端正な容姿にふさわしく、挙措も上品であり、Cardinal Newmanの描いた紳士の美德を数々具備しておられる。無意識のうちにも教室の内外において学生の受けた感化ははかりしれぬものがあつたと思われる。先生はまた特に深遠な英文学の造詣に裏打ちされた深い読みの実践によって英文読解の真髓を後進に教示されたことは周知の通りである。

研究者としての先生は早くからJ.M. Murry に関心を寄せておられたことはその業績表からもうかがうことができる。その業績はロマン主義者としてのマリの批評の特質を初期の論考からさぐられたものもあれば、「常識」との関連から考究されたもの、さらにマリの批評における「文体論」の位置づけをされたものも含まれている。そのほか社会批評家としてのマリの一面を彼の戦争観を通して追究された英文による労作もある。このように多角的にマリの姿を紹介されているが、いずれも多年にわたる真摯な研究の成果であるだけに、論旨は

明快であり、博引旁証によって一段と説得力をましている。さすがに上田敏以来の細心精微の学統をつぐ人の筆である。これ等の論考が書物の形にまとめられて後進を裨益する日も間近いことであろう。

先生の御退官にあたり、先生のご発意に基いて刊行されるようになった本誌第6号を特集号として先生に捧げ、ご業績をたたえることは教室一同の光榮とするところである。